

# 京田辺市所蔵歴史資料の調査と 市民ボランティア

—京都歴史資料の調査・活用・公開②—

東 昇

2014 年度から、地域貢献型特別研究費（ACTR）の事業として「京都歴史資料の調査・活用・公開—舞鶴幼稚園と京田辺市—」（代表：東昇）の調査と研究を実施した。

京田辺市教育委員会の提案は、市に寄贈された近世近代歴史資料の整理を行い、報告書を共同で刊行し、この事業を契機として市史編纂、文化施設へ展開したいという内容であった。

研究体制は、歴史学科の横内裕人が研究分担者となり、これに京田辺市教育委員会教育総務室の松本勇介が研究協力者として加わっている。

## 1. 京田辺市所蔵歴史資料の調査

この歴史資料の調査では、京田辺市に寄贈された資料の目録作成、翻刻および報告書の解題を作成した。同時に市が所蔵する他の文書群の保存状況や、他地域の関連資料の調査（撮影・翻刻）を、東昇と竹中友里代特任講師を中心に行った。

2014 年 6 月 20 日、京田辺市立中部住民センターで歴史資料の概要、市の所蔵する近代行政文書の現状を確認し、今後の調査方針を検討した。また今回の対象資料の関係地である、京田辺市江津地区の佐牙神社など現地調査を行なった。そして市の文化振興計画や文化施設についての説明を受け、意見を交換した。

他地域の関連文書として、京都府立総合資料館所蔵江津村文書の内容確認を行い、翻刻・分析を行った。また明治大学博物館所蔵の江津村関係文書の目録を確認し、今回の対象資料との関連性を調査した。

12 月 15 日には、江津地区の佐牙神社の絵馬・石造物調査、田畑に関する聞き取りを実施した。佐牙神社の絵馬は、天明 9 年（1789）の伊勢参り図をはじめ、5 枚の絵馬と扁額を確認できた。境内の石造物は、寛文 12 年（1672）の石燈籠をはじめ 7 基の銘文と、神輿蔵内の神鏡の銘文や木箱も調査することができた。午後からは、地元の農業委員を勤められた方に、戦前から現在までの、江津地区の田畑や耕作・水掛かりの状況についてお話をうかがった。これは歴史資料のなかで最古の延宝 7 年（1679）検地帳の関連調査として実施した。検地帳は田畑の字名や等級が記されており、当時の耕地状況を復元するための貴重な資料である。聞き取りによって、木津川沿いに田を持つ江津地区では、水掛かりにも池・用水・自噴する水を用いるなど、様々な特徴があることがわかった。絵馬・石造物・聞き取りは、歴史資料を分析する上でも大変参考となる調査となった。

## 2. 市民ボランティアと学生による共同調査

本調査の大きな特徴は、市民ボランティアと学生の歴史資料の共同整理作業である。ACTR 採択直後の 6 月に、教育委員会と検討し実施することとなり、ボランティア募集のチラシが作成され市内に広報された。第 1 回の歴史資料整理は、2014 年 9 月 9 日京田辺市立中央図書館で実施され、学生・院生 11 人、ボランティア 9 名、教員 2 名が参加した。当日の山口恭一教育長の挨拶から、京田辺市における本事業の重要性を再認識した。この調査では、近世の京田辺市域の村に関する頼母子講関連の文書を整理した。金融機関の少ない当時の、村人の相互扶助が判明する貴重な資料を、ボランティアの方と学生が協力し整理を進めた。またこの取り組みは、注目され、毎日・京都・洛南タイムスの各新聞社の記事として市民にも周知された。

第 2 回の歴史資料整理は、2015 年 1 月 16 日に実施され、学生・院生 5 名、ボランティア 6 名、教員 1 名が参加した。この調査では、近世から近代にかけての寺子屋や小学校で利用された教科書類を中心に整理した。前回と同じく、ボランティアの方と学生が協力し、お互いの持つ知識を共有しつつ目録を作成していった。このような歴史資料整理に関してボランティアの方と学生が共同で目録を作成するという取り組みは、京都府下でも稀であり、京田辺市教育委員会の迅速な対応により、成功した事例といえる。また日常、交流の少ない地域の世代間交流として、将来的な展開を考える上でも、重要な取り組みと位置づけることができる。

2 回の調査を終えて、今後は市民ボランティアの方に、大学で実施している地域の歴史資料の調査方法を学ぶ機会を提供し、自らが自らの地域を調べて理解を深め、活用できるような方法が必要だと感じた。京田辺市には 1956 年創立の「京田辺市郷土史会」があり、会員 660 人という全人口 100 人に 1 人の市民が参加し歴史に親しんでいる。このような人々と連携することは、地域の歴史を考え、活用していくためには、大変重要なことであり、京田辺市教育委員会とともに、この点についても検討することとなった。

以上の歴史資料の調査については、来年度以降に報告書を刊行する計画である。今年度は、その準備として資料の目録、翻刻、解題などをまとめた。今後、京田辺市所蔵歴史資料の調査を進めながら、どのように地域と連携しながら、地域に活かしていくか、地域に寄り添い歩んでいる教育委員会とともに考えていきたい。



2014 年 9 月 9 日の京田辺市立中央図書館での調査